

序

スポーツ理学療法は、スポーツを実践する方に対する理学療法である。その対象者は若年者から高齢者であり、スポーツ競技もレクリエーションスポーツの参加者やスポーツ愛好家からプロアスリートまで幅広い。スポーツ理学療法士が活動する競技大会は、地域における小さい大会から、オリンピックやワールドカップのような規模が大きく、競技レベルが高い国際スポーツ競技大会まで拡大している。

理学療法を学ぶ学生は、中学や高校時代にスポーツ競技で怪我をしてしまい、理学療法を受けるなかで理学療法士をめざすことにしたという動機を入学試験の面接や入学後に話すことが多く、若い世代でスポーツと理学療法が結びついてきていることを感じている。

スポーツ理学療法を科目として設置している理学療法士養成校や大学院は年々増加傾向にあるが、すべての理学療法士養成校で該当科目があるわけではなく、また理学療法士をめざす学生に対するスポーツ理学療法の教科書として適切と考えられるテキストはこれまであまりない。

そこで本書は、理学療法士をめざす学生や若手の理学療法士を対象にスポーツ理学療法に興味をもつていただくとともに、スポーツ理学療法の基礎を学ぶテキストとして作成した。第1章、第2章では、スポーツ理学療法そのものに対する理解を深めるため、歴史や目的、資格制度やコンピテンシー（職務や役割において優秀な成果を発揮する行動特性）などについて解説した。第3章～第8章では、身体部位別にスポーツ外傷・障害を取り上げ、概要図を用いてスポーツ理学療法の流れが一目でわかるようにした。すでに学習済みである疾患の概要は簡潔な表記にとどめる一方で、スポーツ理学療法の基本手技については図版も多く掲載し、ビジュアル的に理解できるようになっている。執筆者はスポーツ理学療法を専門とし、数多くのアスリートの理学療法を担当し、競技大会のサポート活動に取り組んできたプロフェッショナルの先生ばかりである。本書を読むことにより、スポーツ理学療法についてさらに興味を深めていただくとともに、いつしか私たちと一緒に働く日が来ることを祈念し、本書完成のご挨拶とさせていただきます。

2023年12月

赤坂清和